WASON
HQ
1104
J74

驛遞局認可
明治二十年一月十五日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送税

第四十七號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1104
J74

驛遞局認可
明治二十年一月十五日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

第四十七號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 47. January 15th, 1887.

第四拾七號

EDITORIAL: Female Teachers in Japanese Common Schools.

LEADING ARTICLES: Mr. H. Kato's Lecture on "The Oriental Idea of Woman's Position in Life" (concluded); Prof. R. Yatabe's Lecture on "The Eemale Education"; Morality Essential in the Social World, by Mrs. T. Nakashima.

MISCELLANIES: Of Fashion; Woman's Dress.

BIOGRAPHIES: Mrs. Eureka: No. II; Gihaku's wife.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENS.

●社說　日本の小學女教員

●論說　加藤弘之君男尊女卑の是非得失講演速記（完了）○矢田部良吉君女子教育論講演速記○交際社會道德の必要（中島俊子）

●叢話　流行と云ふ事○女の衣裳

●佳傳　ゆりか物語（二）○魏溥の妻貞節の事

●寄書　夫妻同伴同席の實行を促し併て世の有妻男子に告ぐ（鈴木靖節女史）○妹と背鏡を讀む（石橋忍月）○閉校式祝文（松井幾子、棚橋下枝子）

●雜報

●廣告

●珊瑚の玉　（十六）

○ベーコン曰く妻は少年の母となり中年の友となり老年の媬となる

○ポープ曰く男子に於ては吾もろ〳〵の感情多く其心を支配するを見る然れども女子には大率ねたゞ二種なり即ち快樂の愛若くは權勢の愛これのみ

○ゴールドスミス曰く貞節なる娘孃、賢明なる妻君、及び謹愼なる主婦は彼の女哲學士、高慢なる女丈夫、若くは大怛なる女王よりも更に現世に効用あり又其夫若くは子供を幸にし惡に迷ふ所の者を救ひ德に入るものを養成する所の婦人は眼光の矢を以て人間を惱殺する小說書中の貴婦人よりも遥かに高等なるものなり

○ルーテル曰く女子の福音を信ずるものは男子よりも熱心にして之を守るとも亦た更に堅固なり例へばかの愛深きマグダーレンを見よピーターよりも更に熱情ありて更に大怛なるにあらずや

○リットン曰く女の心中には愛の泉あり幾千歲の間も遂に之を凍らするあたはず

○セクスピア曰く厚顏にして男らしき女はかの女の如き丈夫と均しく好ましからぬものなり

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第四拾七號
明治二十年一月十五日

●社說

○日本の小學女教員

女權擴張の遠計は全國各小學校の教授を全く女教員の一手に委托し心未だ定らざる幼弱子弟の腦裡に一種の任俠心を養成して之を文明のページ（封建時代の少童にして皆よく女流に歸依す）となすにある趣は吾人が前號に於て細かに論述したる所なり事苟くも此に至らば彼のハラムが昔日の尊女風を評して神と貴女とを愛するは極純の義務なりと感覺したりと云ふ當今の氣風も亦遂に我國内に行はるゝに至るべき歟

之に加ふるに女教員は婦女子の職業中甚だ優雅にして且つ高尙なる者なれば歐米に於ては夙に多く之に從事するの貴女あり特に米の合衆國に於ては小學の女教員は大抵女流なりと申すも差支なき程と傳聞せり去れば歐洲に於ては昔日の尊女風に此事新に加はりていよ〳〵女權を擴張し米洲に於ては移住後に引起りたる女流優待の風に此一事亦新に加はりて益す女權を擴張し遂に現今の男女同等を見るに至りたり斯くも由緣する所甚だ遠くして遂に今日の美風となりたる趣を思ふ時は我國二三年來の急變動は只是れ時勢の一轉したるものなるのみ之に依りて則ち女權を實收せんと欲するは尤も至難の希望なりと認めざる可らず

思て玆に至り我國現今の女教員は抑も幾千ありや又此女教員を養成すべき學校及此學校に授業を蒙る女生徒は幾千ありやと考ふるに實際の景況眞に慨慷すべき極みなるを見たり明治十七年十二月三十一日文部省の調査よ日本全國の小學校は公立私立を合計して凡そ二萬九千七百〇六校あり此教員九萬七千三百十六人にして内九萬二千七百〇六人は男子なりと云へば女子にして小學の教員たるものは全國を通じて僅に四千六百〇一人なり左れば一小學校には教員の數平均三人餘ありて此内三人は常に男子の教員なりと云へゝ吾人は六ケ所の小學校を巡廻する間に於てたゞ一人の女教員と出で會ふと云ふ眞に憫れなる景況なり。而して女教員を養成する所々の師範學校に於て現に授業を蒙る女生徒は幾人ありやと云ふに同前の調査に據れば僅に八百九十五人なりとあり同校の卒業女生徒は幾人ありやと申すに僅に百五十二人なりと云ふ滔々たる三萬の小學校には三百餘萬の小學子弟あり此等の教授を擔當せまほしと思ふ女教員志願の人々は實際生徒の三千分の一にだ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も足らず女學校の校數の三十分の一にも及ばずと云ふ眞に歎ずべき景況にあらずや。然るに此卒業生は皆實に女教員たらんとを志願さるゝものあるやと云はば悲ひ哉大抵は然らず優れるは更に自ら修業し劣れるは最早婚期近つきたりと斷念さるゝ人々のみにて自ら教育の任に當り女權擴張の遠計に對して多少の義務を負はんなど覺悟さるゝは甚だ多からざるとと承知せりかの文部省に於て高等師範校卒業生は五年間教員の職に従事すべしと云へる制限を設けられたるによりても此一事は明に推知さるゝものと云ふべし

我國小學女教員の實況は大抵右の如し然るに一轉して米洲合衆國に於ける有様を見るよ女子にして教員たるものは十五万人の上に出て其數は男子の教員に二倍すと云へり而して其給料はかのマッサチウセッツ、ロードアイランド、の如く女の人口男子に超加せる地方に於てこそ甚だ低けれチバタ、フロリダの如き地方に於ては男女ともに左程の相違あるを見ずと云ふ然も女子高等教育の校舎は年々に増加し千八百七十一年來十ケ年の内には其數殆ど二倍して凡そ二百二十六校となり又男女師範校の數は一千八百八十一年に於て凡そ二万三千五百二十五校ありと云ふ女教員の養成いよ〳〵行屆て小學教育の實權は益々婦人の手に入らんとす眞に羨むべきの盛況あり

我國には現今女子職業の論世上よ行渡りて授産の策も亦尠らず婦女子の之に心を傾くる者も亦漸く多くなりぬ吾人は夙に之を主張したるものなるが故に女流の手には一箇の職業も多く入かしと祈念せざるはなし况んや此事を主義として婦女子に職業を教授する學校などあらんには之を慶賀して止まざると勿論なり然れども女子の職業として現今尤も高尚有徳なるは女教員なり女權擴張の方に對して尤も有功なるも亦女教員なり能く男子と競爭して遂に男子に優り其職業内には到底女流を以て充滿せしめ得べしとの望あるも亦女教員なり然るに今の婦女子が此一職業に對して特に冷淡なり今の教育家が此種の學校に對して特よ注意を欠き玉ふの趣あるは甚だ奇怪の事と云ふべし故に吾人は斯る人々双方の注意を促して世論が此大切なる一事を放却するとなからんとを切望すると共に茲に先づ尤も希願する所の者は斯る教育の任に當りて自ら女教員たらんとに熱心する女流の多く出んと是れ也希くは女流の志あらん者須く其眼を此一方に傾け身を高尚優雅の職に安じて同時に女權擴張の遠計を行ひ第二世の日本人種を悉く其子弟となし隱然百年の策を立てゝ實權を收め玉ふべし今の時

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に當て女子の職業中かゝる有効有德あるは蓋し他に之れあらざる也

叢話

○流行と云ふ事

世にハヤリと申す事あり之に流行と云へる文字を用ひたるは眞に面白き味あるを覺ゆ抑もハヤリの質たる風の己が儘に吹きて何處より來り何處に行くを知らざるが如し突然として起り來り遽然として流れ去る眞にいさゝかの間の暴風にして去つて亦た跡方なきは其の常なり凡そ物事には皆な因果と云へるとあり何物の生じ來るにも必ず其因て起る由緣なくては適はず而るに此の因果は彼此大抵相應するものなるを以て瓜の種には南瓜を出さず無花果は葡萄の種より生ぜざるを規則とはなすなり然らば彼の大波の寄せ來り暴風の吹きすさむ程に流行する物事には又それ相應の元因なくてはあらず若し既に之に相應の元因ありとせば何故ゑ斯く决果の太く短くたゞ暫時のうちに消滅するやと申すに大凡そ流行の元因たるたゞ只極めて愚かしき程の細事なり其細事が時の運にめぐり合ひて不思儀の仕合に乘じ乍ち破竹の勢を呈するものとなりたる譯あるを以て之が爲に熱血をそゝぎて盡力したる人もあらず之が爲に精神のあらん限り運動したる志士もあらず只だ何となう出現したる怪物なれば亦何となう消滅するはその謂はれあるとと云ふべし

昔し郭先生の冠偶とにしたる事より角を折りたり此れ素とあるまじき儀にて直ちに折目を正すべき筈なれども先づ其が儘にかうむりたる事と見へたり然るに朝廷の面々皆な之を眞似て特更に其冠の角を折り滿朝恐く折角の人となりたり折角の文字これより起りたりとは歷史家の註釋なれども事の流行はもと斯る所より出るものたると疑なしつら〳〵西洋の實例を考ふるに昔し佛蘭西にフエルローニーレと申す絶世の美人ありけり平常卷煙草を好みて喫したるが或る時半ば吹さしたるを指の間に挿みて物案ぎたる折心もなく頭をひねりかの煙草を挿みたる手の上に額を置きつゝあなや吹かけの火に玉の額を燒きて少かの傷を蒙りたり因て此傷をかくさんとて寶石の飾を額に着けたるが流行の元となり翌日は朝廷の貴婦人皆悉く額のかざりをば着けゝる。又英國の皇妃御首長やかにしていと醜ければとて上衣を特更に高う着たまへば龜の如き首したる貴婦人も亦惣じて上衣を高うし。皇妃の御足の何やらん

一つのみ短くて跛びき玉へばアレキサンドラリムプの格好と申して一の靴を低くする貴婦人多くあれり。又ダッドレー伯爵夫人宴會の衣裳間に合ひかねて腕につくべき襞の袖をたゞ假初に縫ひ付たれば之よりしてパッカードスリーブの仕立流行し。パムパドゥア侯爵夫人御丈低くして目榮宜しからねバ其靴の底を高くして丈を足し玉ふ之よりして貴婦人の高靴と云ふは流行したり

大凡そ流行のものたる大抵皆な斯る元因よりして偶と起り來るものにてあれば其作ちにして消滅せんは固より當然の事なり去れば彼のハーパースバザル又はハーパースウイークリーなど申す西洋の新聞紙を見るに毎號にパリー、ロンドン、なんどに行わる時の流行を記るせり一週毎に發兌する新聞紙に毎號流行のうつり變りを逃ると云ふハヤリの變化の甚だ迅速なるを推して知るべき也然れど斯る流行を追ふて時々のハヤリ風に身をたゞよわし只だ彼此と風習を變遷し以てゆくを終身の樂みとするは豈に笑ふべきの極ならずや心あらん娘孃達のゆめ迷ひ玉ふべき者にはあらじ總て何事にもよく考え合せて善事物は確と之を執り只一時の流行物はろの吹くが儘に吹かせて自からに流れ行かしむべし決して之に倣ひ玉ふ可らず

○女の衣裳

西洋には女の衣裳と云ふ事甚だかしましき問題となりて數多の著作もあるとなるが中にもハヱース夫人チリフハント夫人デウィングス夫人などの衣服論は近著のうちにて尤も有名なるものときくに此等ヱは皆な格好の元理色合の照應など云ふ不容易の議論もあるとなヱ吾人若し此樣にして女の衣裳を論ぜば中々に短う得盡すべからず然れど現今洋服論盛んとなり追く々に女服の改まる趣きあるに際し斯る心得少かもあらざらんには其姿は恰も万歳の服つけたる如く又婚席に喪服を着たるやうの不都合を間々見るものと云へば多少は其道の理窟を承知すると甚だ大切なり故に今まは其大畧を箇條がきにして下に少しく述ぶる所あらん

總て女服には限らず凡ろ衣服と云へる者には皆二ッの大切なる要點あるとなり一は身躰の格好によく相應する事二は氣候に適し着手に適し人々の要する所に相應する事これ也故に之を畧して云へば第一に躰に合ひて心地宜しかるへし第二に時と人とに相應して見榮立派なるべし右を二の要則とす女の衣服も亦實に此規則に随れざる可らず

例へば帯、紐、コーセット、靴、其外何にても躰を損する程に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自然に逆らはゞ則ち第一の規則に背くなり暖天にあつくるしき色合に染め寒天にみそぼらしき衣服をつくる如き又は丈低くして衣服をあつくし丈高くして瘠たる恰好につくるなどは皆な第二の規則に背くなり

第二の規則のうちには色合の事尤も不容易なり然れど惣じて餘り華美なるは宜しからず又餘りじみ過たるも不可なり

要するに第三種の色と云ふを擇びて第一第二兩種の色は左程に用ゆ可らず

第一種の色とは　赤　青　黃

第二種の色とは　赤と青とより成れる紫●　青と黃とより成れる綠●　黃と赤とより成れる樺●

第三種の色とは　綠と樺とより成れる佛手柑色●　樺と紫とより成れる茶褐色●　紫と綠とより成れるチリーブ色●

但し第一種の色を用ゐて華美なる趣をつくる心得もあれども若し此色のみを以て長服など仕立たらば外に何如やうの色を以て之につり合せんとするも見え宜しからず。第一種の色に鼠色を合すればいよ〳〵華美なる趣目立つべし。尤も鼠色の地に少々青色の分を合せば甚宜し。（未完）

● 論說

○加藤弘之君の講演（男尊女卑の是非得失）

筆記（前號のつゞき）

支那では晝の間夫婦が一所に居ることは無く日本でも大名などにあると夫婦が一所に居ない。「夫婦有レ別」といふこともさういふワケからして夫婦といふものは別になッて居ろ、ナレナレシクせぬ樣にしろといふとで其れが自然の風習でさうなッたので決してワザワザさうきめたのでは無いと思はれる。其れが本當よ男尊女卑の殆んど消えたのは歐羅巴に相違ない歐羅巴では法律上でも今日の社會上でも妻の夫に對する權力があれば子が親に對する權力もある樣になッて居る。即ち夫に從ふ親に從ふといふものでなく會社の一個人といふものになッて居る。近ごろフランスの大さはぎの前から女の權を盛んにすることは盛んになり女の豪傑が出でやかましいことを言ひ參政の權のことまで議論になりまた近ごろはアメリカで女の權を盛にしなければならぬといふことになッて男尊女卑といふことが消えて來た。併し裏から見てみるとさうで無い有樣もある。一夫數妻は惡いといふけれどもカ子モチで無ければ持つものは無く假令之を許すといッても貧乏人は持てない。然るに歐羅巴が一夫一妻だけれども其の內幕を見ると全くさういかぬ。或る人の調べたのにトルコは一夫數妻の國だが數妻を持ッて居るものは千人に一人しか無い。然るに歐羅巴のパリスやロンドンには妻の外に外妾をもつて居る男はトルコ人の數妻の割合よりはヨホド多い。して見ると表向きの通りで無い所もある。併し歐羅巴では外妾の樣なるものがあッ

ても表向き一夫一妻だから先づ進んで居るに違ひ無い。近ごろハ日本でも歐羅巴の開化を爭ッて取る有樣で長所ばかりで無く短所までも取るが男女の間柄のことにあるとさうで無い。歐羅巴のことを盛んに主張する人が女のことにあると不承知の樣に見えるのハ甚だ分らぬことだ。飲食男女の慾ハ人の大慾だから男に權が強いから男が勝手なことをするのハ當然だがッマル所ハ女の教育が無いからさうなッて來るのに違ひ無い。權をもッて居る人が權を節することハ少ないものだ。ドゥしても女の權を進めるにハ女の地位が進まなければならない。女の地位を進めるにハ女の教育が進まなければならない。

私が今日いふたのハ男尊女卑ハ今日でハ惡いとに違ひないが其れを改めるよハ女の教育が盛んにならなければならない。併し男尊女卑といふことが大むかしから惡いことだと思ふのハ間違ひである。開けて來てハ男尊女卑ハいかないに違ひ無いが大むかしハ男尊女卑でなければならなかッたといふ主意を論じたのであります。

（畢）

○矢田部良吉君の演説（女子の教育）筆記

（一月九日大日本教育會に於て演説せられたるものに係る）

諸君。私ハ今日女子の教育のことをお話しようと思ひましたがアイニク女ッきれも無い次第。初めハ定めて女のキヽテのあることヽ思ひ樂しみにして來ましたがヒトリも來ないとハ甚だ失望の至りで御坐ります。さて私は螢の光り窓の雪とか或ひハ壁にアナをあけるとか錐を股に刺すなどといふ樣な苦しんで學問をする仕方ハ甚だ嫌ひの方で、ところで今日ハ寒いのが非常だが併しこれハ私の罪でも無いが私ハ今も言ふ通り氷の上で學問をするといふ樣な主義ハ甚だイヤだが寒い所で面白くも無い話しをするのも諸君に取ッて甚だ御氣の毒のことだが、さて

方今我が邦におきまして教育上の一大問題となッて居りますことハ女子の教育でこのことハ日本に於て出版の新聞紙雜誌等ハ日本の文で書いたものでも歐羅巴の文で書いたものでも女子の教育の問題に付て論じないものハありませぬ。其の論する所ハ甲點から論ずるもあり或ひハ乙點より論ずるもあります。併し何れも一方に傾かないものハ無い。私が只今申し述べようといふ所も他の人から見ると一種の僻説だといふことハ免かれませぬか知りませぬが併し私の僻説の中にも取るべき所があれバ宜しく御採用を願ひたひ。私も私の説ばかり完全たるものとハ思はないから。

其れで我が邦の婦人にハ教育が無いといふ人があるが紫式部だの淸少納言だのの如く文學に長したる婦人があッた。併し箇樣な婦人ハ偶然に出るものでハありませぬ。德川時代にハ中にはナミスグレたものがありましたが其時代にハ男女に係らず儒教主義を用ひたものでありますから今日にハ適しませぬ。今日はドゥいふ風になッて居るかといふと主義に於ても方法に於ても違ッて居ることが分ッて居る。四書五經や左傳史記ハ昔の教育の本尊でありましたが今日ハ箇樣なものハ本尊でハ御坐りませぬ。また昔ハ素讀手習などが第一でありま

したが今日では意味も分らないことを敎へたりすることゝなりしない樣になりました。昔の聖堂と今日の大學とを見ても實に宵壤の違ひで御坐りませう。中には儒敎主義の敎育より外に敎育の仕方が無いと思つて居る人も御坐りますがこれは大いなる誤りと言はねばなりませぬ。

さて儒敎主義の敎育の行はれました時分には其の主義の書物は澤山御坐りましたが其の中に貝原益軒の女大學を婦人の心得方の本尊として居る人が御坐ります。この女大學の如きは素讀にも用ひ手習にも用ひ廣く女子社會に行はれて居りました書物でこれは封建時代では女子の敎育には至極よき書物で御坐りましたらうが「夫は天の如く敬へ」と云ふ樣な主義で妻を夫の奴隷とした有樣で女の爲めには實に氣の毒なことで御坐りました。併し其の當時は却つて天の如く敬ふべきほどの夫が少なかつたことゝ思はれます。

韮山の江川太郎左衞門といふ人は西洋の兵式を傳へた人で私の母の父でありますが私の母が私の父の所へ嫁するときに心得の爲めとして私の母に一つのマキモノを與へられ私の母は其れを私の妻に傳へましたが其のマキモノを一讀しました所が大いに當時の女子の心得方をうかゞひ知ることが出來ます。

Home they brought her warrior dead;
She nor swoon'd nor utter'd cry;
All her maidens, watching, said,
"She must weep or she will die."

Rose, a nurse of ninety years,
Set his child upon her knee:
Like summer tempest came her tears—
"Sneet my child, I live for thee,"

Tennyson.

〇交際社會道德の必要

中島俊子

何にても物は皆數多の經驗を歷たる後利益を生ずるもの故是れも損あり彼も害なりと云ふて手を出さぬ時には終に損もなく害もなき替りには利もなく益もなきものなり利益を得んとなれば其内損害も免れ難きは事の常ね故利益を生ぜんとて爲す事に損害の點あるとて敢て咎むるには非れども成る可くは注意を得たきものと思ふは近時は兎も角婦人の事柄は社會の一問題となり其問題中には婦人が成りたけ歐羅巴風に化せねばならぬ故グード、モーニン位は言ねばならぬ。スプーン、ホークの持方位は知らねばならぬ洋服の着方に注意せねばならぬ又ピヤノも彈せねばならぬ踏舞も出來ねばならぬ又婦人は美麗であらねばならぬ又紅粉臙脂の煩きを厭ふてはならぬとて漸くグードモーニングも言に差支なくスプーン、ホークの持方も差支なく洋服の着方にも差支なくピヤノを彈じるにも差支なく踏舞にも差支なく紅粉臙脂にも行届くを得たれば先是にて何も一通り整ひたれば是からは何々館にも出掛るがよからん何々の會にも入會するがよからんと甲行き乙行き愈男女交際の道啓き其の館其の堂の夜會には一塲芳花名鳥相集り綺羅錦繡粲然光を放ち是れぞ文明の彩色を摸寫せしものと

謂つべきに是の綺羅錦繍の光輝中近頃ハ人の悪言を出すものありて芳花意あり名鳥豈情無からんなど云ふもあり又夜會の闌はなるに及んでは中には痛醉宛も春蝶の狂する有様ありなど云ふもあり素より妾其席に列らなりしとあらねば果して其言の信なるや否やを知る能はざるも皆歴然たる紳士貴夫人の交際なれば何にしに右様の事のある可きぞ是れぞ必ず人の羨に堪へざるの情より斯くは鄙言を出すゝ相違なきとは深く信じて疑はざるなりされども妾向後に於て聊か心配する處のものは文明の彩色を摸寫すると同時ゝ道德を交張するとの必要なる言を待たざるなり禮節萬事歐風に習へば握手の禮を取らねばならぬ今迄東洋には男女席を同ふせず夫婦別ありなどの教ありて自ら男女の間疎然遠隔たるの有様ありしが今俄かに疎然たりし處の男女は握手親睦を表し或は席を同ふし坐を分ちて相酬み相談ずるに至りては男女の間曾て儼然遮斷したる鎖鑰を一朝解散せしものゝ如く歐洲に於ては握手の禮を取るも亦同坐相遊樂するも素より是れが其國の習慣なれば宛も我が國の低頭の禮を爲し茶を飲み煙草を喫すると齊き感覺にして他に何たるの感覺を起さゞるならん東洋の如き男女儼然たるの交際をして直に西洋の風俗に從はしめば中には如何なる感覺を生ずやも圖り知る可からず妾は決して歐風の男女交際を東洋に移すに異論あるものに非ず然れども之を移すと同時に道德の基礎を堅固にし道德心を男女の腦頭に注入し文明の光輝に汚點を附けざる樣勉む可きの必要を感ぜり

●佳傳

○ゆりか物語　（第二）

斯て秋も半ばとなりぬ木の葉は精舎の鐘にひゞきて散り庭前のながめは諸行無常の實相と變はりぬ年久しく癈れたるかの某は秋もまだ過ぎゆかぬうち早う此世を逝りぬゆりか温太等の歎は更にも言はず平素温かならぬかの母親もたゞ此頃ぞ聖人らしうもてなしけり

ゆり「父樣が此間を前達にいろ〳〵と仰ッたがアレモ全く虫とやらんの知らせでありましたらうチー

斯て七日の一つ二つはたゞ茫然として過ぎぬ温太はあまたゝび氣を勵して机に對ひ師の教へ玉ひし章節は皆これ其御遺念ありなど申して讀かけたるが暫くにして乍ち腕叉きうなだれぬ、ア、我ながらと氣を引立てゝ又讀いだし又やめぬ

ゆり樣先生の御認め物がいろ〳〵とありませう大切に御片

付なされませ
父様もし御躰が健にましまさバアッパレ國の爲め御盡力もあるべきに斯久しう身をかくして一室に閉居し玉ひたる御心のうちは如何に居ませしならん、ア、此は建國の策と題してあれば定めて御考の大議論ならん此はコチラへ置ましてそれ〳〵今年のたしか夏の比
温さん父様が我なからん後ちは皆燒すてよと仰つたはタシカ之で御座いましたチー
月日は早くも過行て三七日と云ふ夕となりぬ温太は獨りつら〳〵思ふ樣當今の形勢甚だ容易ならず志士の一日も身を安んじて閑居すべき時にあらずとハ覺ふれど是迄は身不自由に居ます一生の恩人を棄て且つは學業尙成らざるの身を以て早く政波にこぎ出んとは思ひ定めずありしが今日となりては身を制するもの更に彌や增したり我もし此家を出でゝ獨り東に上らんか御兩人は何如にして御暮しありゆり樣は何如にして身をあつかひ玉ふらん先師逝去の前日しみ〴〵と御委托ありしとを思へバ必しも己が志をのみ成すべきにあらず然ればとて師の才學を永く地中に沒して其御名前をだも世にあらハさず渡らんは固より弟子たるの心得にあらず况んや御敎を受たる學業を國家の御役に立て切ては先生が無用に癈死し玉ふ御憾を償へとは又これ一個の御遺言あるを果た何如にかせんと思ひ煩ひたりゆりかは賢くも之を見拔きて信やかにすゝむる樣父上が妾を君に托し玉へるは妾に衣食を與へよとの御賴みにはあらず何卒國の爲めその御遺志をつぎて此亂世に眞の光をあらハせとある最と公の事なるに妾は身一女子にして何如ともすべからずたゞ何事よも君の助を得て末永ら此御心を成すの道を計れとのみ仰ありしやう悟り侍る又母上が常始終妾を快からず持なし玉ふは必竟妾に足らざる所あればなり今は父上も亡せ玉ひて親と云ふは御一人なり何如に妾を惡み玉ふとも親なきの國に行かずバまた誰にか反かん况してや事の起りはたゞ妾なり之よりは心限り睦じう暮して其御行先を見屆け參らさんと思へば此事にも亦心を勞し玉ふな願ふは今ま早く志を決しまた妨のなからん前速に東の都に上り尙ほ御才を研きてアッパレ父の遺志を果し玉へと云ふ温太は尙ほ憂ふる所もあれどゆりかが雄々しきに勵されて然らば切て五十日の服を終りたる後と定め何かとあと片付など取計ふうちに七七と云へるを早や昨日と過して頃は冬枯近き時となりぬ
明日はいよ〳〵發足なり温太は佛前の燈明をかき立てゝ壇下

にひれ伏し口授を受けたる洋書を取出して高らかに朗讀し我師への讀經之に過たるはなしと申すゆりかも亦た傍に侍べりて何やらん念じたるが引出より紫包の一品を取出で此は父が心をこめたまへる建國策なり始終保護して切ては父居ますと思し召せ此は亦妾が寸志なり暇あるつれづれ書つけたる心の友なれど之を見すべきは君の外にあらず願うは受收めて折々の御なぐさめとなし玉へと云ふ半紙二三十枚よあまたの詩歌をかき列ねたるなり温太はもろともに之を戴きて數度禮謝し其夜は何かと語りつゞけて翌朝はまだきに旅裝しつゝ御機嫌よろしくの一言は千万無量の心をこめて多くも言はず門いでしぬ

○マダム、デ、スタルの傳

○理想佳人傳

右二章のつゞきは都合により後の號にまわす

○魏溥の妻貞節の事

むかし魏の太守に房湛と云ふ人あり其むすめは幼きより貞節の思ひあり十六にして魏溥と云ふ人の妻となれり其あくる年のくれに夫病にとりふし春に及びていよいよ重し斯て妻をよびよせなくなくいひけるは天命なれば死すべきをもうらみずたゞ心よかゝるとは汝年若うして我母すでに老たり近き比に子は生れて西東をだに知らず此子をたれにか頼むべきものなし之のみ黄泉のさはりなりとかきくどきけり妻聞て泣て云く自ら古の世々の聖賢の教をきゝ傳ふるのみ歟まことに君にあひなれて其契偕老のかたらひ色かはらじと思ひしよかゝるとありて空しく成玉ふは天命なり御母しうとめは年老玉ひみどり子はいまだ襁褓の中にあり自ら若き身なればとて之を棄て君がうらみを負ひ侍らんや貞節の義を守るは女の道なり割なき契には一日の恩をうけて百年の命をすつるは女の義なり諸々の事をば心やすく思ひ玉へと云ふ斯て魏溥つゐにはかなく成ければかばねを收めんとするとき妻則ち刀をもつて左の耳をきりて棺の中に投げ入れて云く黄泉の契をまち玉へとて引かつぎ伏したりしうとめは涙と共に之はいかなる事をし玉ふぞやとて悲めば妻の云く自ら年わかうして夫にはなるゝは身の幸なきゆえなりわが父母定めて我志を疑はん此ゆへに盟を起して貞を守り子をはごくみて家をおこさんと思ふなりとそれより常に身をひそめしうとめにいよいよ孝を盡し其子魏緝をそだて既に數才になるより門より外に出さず戯むれ事をなさせず學文をすゝめて遂に濟陰の太守とはなしぬ

●寄書

○夫妻同伴同席の實行を促し併て（世の有妻男子に告ぐ）

日本婚姻法論畧著者訂正　靖節女史稿

朋友を訪ふも宴會に臨むも運動を試みるも夫妻之れを共にするの風ハ文明國の一現象なるが野蠻國ハ即ち之に反し夫妻手を携へて逍遥應酬するか如きハ頗る外見に關することゝして賤む所なり日本國ハ今尚ほ之れを賤しむ所の一部分に居りて貴顯紳士の外ハ夫妻同伴の實行を爲すもの眞に稀なり而して其の謂ふ所の貴顯紳士と雖も盡く之れを行ふものあらず甚だ不審の至りなれども因習の久しき二三の英斷者を除くの外ハ其の利益あることと幸福あることとを知りつゝも舊來風俗の壓制に抗抵するの勇敢に乏しくして夫妻同伴の實行を爲さゞるものあれバ又未だ其の利益あることと幸福あることに氣付かずして唯舊來の儘を善とし偶外國人の夫妻同伴するを見れバ之れを醜態なりと卑むの人あり此の後なるものハ姑く置き前なるものハ自己の心中夫妻同伴の利益あることと幸福あることを分別するにも拘わらず只世人の毀譽を恐れて之れを實行せざるものなれバ此等の人こそ最も解せざるものと云ハざるべからず蓋し夫が妻を隱蔽するの風ハ野蠻國を通じて皆な然らざるハなし其の由來他なし其の妻と稱するもの多くハ男子之れを掠奪し其の箕箒を取らしむるものなれバ禽獸的の嫉妬心ハ無論火炎の如く男子の滿腔に漲り之れを密室に秘匿するハ云ふに及ハず兄弟父子と雖も稀れに逢ふことを得る程なり左れバ婦の位置ハ常に禁錮の姿とも云ふべきものか且つ其の弊たる妻の身分に止まらずして處女と雖も亦其の運命を免れず青天白日の下自由に行動するなどハ存じも寄らざることにして居常深窻に塞さがれ奄々として稍々其の氣息を通ずるのみ夫れ斯くの如き「ホーマア」時代の風俗ハ在昔のみならず今日と雖とも亞弗利加濠洲等の野蠻種族間にハ幾んど見ざるハなきなり此の故に日本國にして禁錮主義の婦人頭上に懸る間ハ之れをしも野蠻種族と相去る遠からずと批評さるゝも否な然らずとハ何分申し譯け立ち難きことならん。左りとハ殘念の次第風俗上誤謬なる思想の如何ほど凝結しあるにもせよ滔々たる世評の重圍が如何ほど堅固なるにもせよ之れを破ぶらずしてやハか置くべき苟しくも婚姻制度ハ兩性愛情の連鎖なる以上ハ之れを内に秘して情愛を徒食するの卑怯なるべからざる筈なりよろしく公明正大之れを世に發して夫妻共に眞成の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

苦樂休戚を股分するの實を表すべきが兩姓の天眞に適ふものとこそ云ふべけれ然るを印度チッタゴングの山人が婚姻を唯食獸的の交りを爲すものと思ひ又は薪水の勞を取らしむるの方便なりと思ふ如く我國の男子は今日尚ほ左樣に思ひ居れり濠洲人が夫妻間に些の情愛なくして夫の妻を遇する豚犬にも如かず而ふして動もすれバ之れを鞭笞刺傷する如く我國の男子は今日尚ほ左樣に行ひ居れり世の習ひとは申し乍ら淺ましきなと云ふもなか〳〵沙汰の限りならずや

然れども近來幸 なるとには婦人改良の論男女同等の說の勃然として玆に起り相會するや談常に此に及ばざるはなきまでに至りたり夫妻同伴の利益を實行するには甚た便利なる機會と云ふべし又婦人をして男子と同じく公交際を張らしむるには此上なき時節と云ふべし然るに口程に其の實行を見ざることそ奇怪なれ夫れ今の時は妻を隱匿するの必要なき時代なるのみならず之れをして務めて公交際を取らしむべき時代なり又今の時は夫妻相愛の情を秘密にすべき時代にあらずして亦宜しく之れを顯彰すべき時代なり朋友を見舞ふも宴會に臨むも運動を試みるとても今日は是れ男子單行獨步の姿なれバ眞成の利益と幸福とは其間に在らざるなり朋友に見舞はれ又は私宴を張るときと雖も男子同志の殺風景にあらざれバ妓を招きて跳舞の醜態を演す眞成の利益と幸福とは其間に在らざるなり甚しきは妻君閨怨の情に惱むにも關はらず乃公遠征肥馬を花柳の間に繫ぐものなれバ又其の朋友は若干の人ありて其人々は甚た信用すべき人々か其性質職業は如何なりやなどの事は曾て妻に物語りしことなき人も尠からず其の蠻風如何ぞや是れは則ち偏へに夫妻同伴同席の利益と幸福とを知らざるに坐するのみ凡そ世の中に情愛を呑込むより愚なるものなし我日本の男子に於て婦人に對する情愛なしと云ふにはあらずと雖陽に無情を裝ふの因習あると男尊女卑の僞善心に促がされ務めて妻に對する關係の冷淡なるを誇らんとするの形ちなきを得ず其極遂に夫妻の間柄冷水の如く曾て情愛の片熱たも止めざる有樣に陷るは比々皆な然りとす然れども夫妻同席同伴の效果は全く之に反し眞成なる婚姻の天堂に優遊娛樂して以て永く愉快に生涯を終らんとす人間の能事此に盡せりと云ふべし而ふして其の感化は文明の進步を見幸福の普洽を呈せんこと必定なり我々は我國人か夫妻同伴同席の勇なきを惜むものなり風俗上の壓制を破ぶる能はず一日を苟しくもして曾て眞成の滋味を嘗むるの勇敢なきは男子の恥辱之れに增すもの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なし世の有妻男子果して之を如何か思へる

○妹と脊鏡を讀む

湯島三組町　石橋　忍月

日本小說改良家の親王春のや朧氏(實は文學士坪内雄藏)の戯作に係る妹と脊鏡ハ昨年一月より續々發兌し爾來十閲月漸く第十三號を以て其大尾を告げたり此書最も世人の愛讀を受くるも未だ是非の點をほじくり出し以て純然たる批評を下したる者あるを聞かずいでや忍は是より横負贔屓と阿諛主義とを去り公平無私の眼を以て之れが批評を下さんと欲す

妹と脊鏡ハ一箇の果決力に乏しき水澤なる者が敎育なき女子を妻るを説き以て自由結婚の弊を述べ又一箇の權才に富む田沼なる者が己れを思わざる女子を慕ひ終に其兩親の心を得て妻となすを寫し以て干涉結婚の害を示す一女ハ精神の寡婦となり一女ハ投水の愁歎となり誠に目出度からざる破れ鏡に終りしハ思わず人をして失望落膽せしむ試みに雨窓孤燈の下靜思瞑目此篇の結果を考ふれば結婚の事ハ論なく萬般處世のこと中庸の謹まざる可からざるを知る可し又浮華年少の輕擧心と眼界狹き親爺方の早合點とを猛省せしむるに足る可し是れ一篇の最も卓絕なる所にして朧氏巧妙の才筆亦た此所に存す故に忍が賞許を下すも亦た此處に力を費さゞるを得ず

夫れ西洋諸國に於てトラゲヂー(Tragdie)の尤も文學社會に賞譽さるゝ所以の者ハ其之を作るに難く而して人の感情を惹起す最も切にして且つ最も深きが故なり我國從來の小說と稱する者皆な無理牽强めでたし〱を以て大團圓となし和合長久睦まじく幾代の春を迎へけるとの句を見ざれバ未だ以て眞の小說となさず(只春水翁の娘節用ハコンメヂー(Commedie)の躰裁を脫する耳)今朧先生大活眼を以て日本未曾有のトラゲヂーを編成されしハ感服の上にも感服せざるを得す又小說社會に代りて萬謝の上にも萬謝せざるを得ず

小說ハ素と人情を穿つを以て主とすれば寓意諷誡を要せざるが如しと雖も寓意諷誡なきの小說ハ躰ありて神なき者之其筆其文如何程巧妙なるも神なければ情なきの美人と一般なるのみ美人如何程窈窕なるも情無ければ木偶なり雛人形なり彼の獨乙のレッシング氏の「ミンナ、フホン、バルムヘルム」ハ世人の尤も重ぜざる所のコンメヂーなり然りと雖も一箇の士官一箇の貴女一箇の佛人を假り來りて以て普魯西、ザクセン、佛蘭西三國の關係を寓寫し巧に當時を諷するが故に最も世人に賞讃せらる我國從來 生涯 の苦樂を共にし百年の浮沈を同ふするも又妻を擇ぶに於て或ハ之を干涉に失し或ハ之を自由に失

す自由に失する者は只女子の姿容のみを慕ひ教育もなき裏店の娘を引き入れ半年か一年も立たぬ中に初めてとんだ後悔を釀し干渉に失する者は男女性質の投合如何をも顧みずして終に憐れ果敢なき生涯を送らざるを得ざるとあり今先生の著此の二弊を寓刺する最も適切にして現時上流に位する御方々にして此書を讀み一種無量の思ひを胸中に畫かく者鮮からざる可し

次に猶一言賞す可きは氏が遊廓の有樣を直接に顯さずして關接に寫せし事即ち形を出さずして只影を寫せしの一事あり主人公なる水澤か根津とやらんの青樓に登り若里ある遊女と對話のと及び阿春か若里と口論の塲の如き尋常の小說家あれバ其模樣の形を直寫するは鏡に掛て見る如し然るに氏は之を嫌つて不得已他物を假て之を影に寫せしハ蓋し我國の弊習として身分もあり學識もある堂々たる士人が社會中の最賤業を營み阿諛と姿色とを專賣とする藝娼妓に弄るゝを恥とせす却て花柳の地に入らざる廉正の眞男子を稱して偏屈とか野暮とか自儘勝手の野蠻說味噌磨主義を唱ふるに至る從て從來の作者筆花柳の形を寫し畵花柳の狀を寫し毫も怪まざる者あるに原くなり殊に彼の管廟社畔に住はるゝ鳩とか怠惰者とかに由緣ある某居士は。。新史と題する新著書に揚言して曰く人の此世に生るゝや快樂を得んと欲するに在り若夫れ花柳界裡に入り蝶と戯れ鶯と歌ひ醉て而して花に貸り寢て而して柳に夢む天下何の樂か此に過ぎん人間何の快か之に比せん紅粉社會に入て愛慕の權を專らにするを得ば我望み足れり云々又曰く花柳あるは人間社會ある所以なり天下若花柳なければ寧ろ人間社會なかる可し云々と嗚呼是れ政黨で云へバ「コンミニズム」なり「ニヒリスト」なり我國風俗の卑賤何ぞ此の如くにして可ならんやおぼろ先生の花柳の狀を寫そゑ貪ある蓋し社會の品位を高尙にし風俗の卑賤を矯正するに在るか將た暗に鳩鳥の連中を駁するに在るか

忍是迄力を盡して此著の感服す可き點を賞贊せしを以て是より其穴を擧げ疵を求め余りヅットせざる個條を非難し以て之が批評を了らんとす

○閉校式祝文　（東洋英和女學校閉校式塲朗續）　松井幾子

今や四時の序將に改らんとし定期の業亦た卒る乃ち閉校の典を擧げ更に開曆の辰を待つ高軒爰に臨み輝々たる寵光榮黌門に加はり恩學生に及ぶ感喜比なし何の辭か能く罄さん抑ゝ本校の施設たるや上み文部の制を奉し傍はら歐洲の模を參

し學は皇漢洋を兼修せしめ要は體知德を併育するに在り而して修身齊家の道愛國敬天の旨一も闕くる所ろなし明治十七年十月創業より此に至るまで僅々二年有餘其初年閉校の時のごときは教師三名生徒八名に過ぎず次年閉校の時に當ては教師七名生徒八十餘名現今に至ては外國教師五名內國教師十二名寄宿生殆と百名に達し通學の徒も亦百名に滿つ經歷の日尚ほ淺しと雖も施設の効虛しからざるを見る夫れ一花の芬芳は以て天下春風の遍きを知る可し一校の興起亦海內女學の盛んなるを徵するに足らんか是れ誠に本朝隆泰の餘澤諸君贊襄の結果なり幾子生員に班するを以て幸に恩輝に接するを得因て本校の今日に至るの概況を開陳し聊か歡迎の意を表す

棚橋下枝子

○閉校式祝文　（東洋英和女學校閉校式場朗讀）

今年明治の十あまり九の年といふ師走の廿三日數多の教へ子をおほしたてゝまざかにあほき麻布の里に榮行ほまれを鳥居坂なる東洋英和女學校に閉校の式をなんめうらくなる其式はおやわりておきらけき西のくにふりをうつしてゆたけく美はしきをむねとすなるは言ふもさらなり校の內外いと淸らにものして客人のむしろところせくつかさ位いみしき方樣に學びのみちたとくしからぬ大人たちも立まじり給ひていとおもはゆけおるまどゐなりけりそがなかゐねひたる教へ子のこれかれおるはこゝろゆくかぎりを口にものしてたはやすくときおかすもおりおるはこよおきよろこびを筆にいはせてみやひかにことおけするもおりてとりどりにめでたしと打うたふからは年ころ教への師とたのみきこえたる人々のいさをしるし目に見えぬ神のみふゆも大方ならしかしとおしはかられておん

ひらけゆく人のさとりをおもふにも
　神のみいつのかきりしられぬ

みそなはす神のこゝろやいかならん
　人のかきりはおかすしもあらぬ

とはかりしのひやかに打すんしてろかおとへにかしこむものはおしへ子のつらにかすまへられたる　棚橋の下枝

A good wife is Heaven's last best gift to man—his angel and minister of graces innumerable—his gem of many Virtues—his casket of jewels; her voice is sweet music—her smiles his brightest day—her kiss the gurdian of his innocence—her arms the pale of his safety, the balm of his health, the balsam of his life—her industry his surest wealth—her economy his safest steward—her lips his faithful counsellors—her bosom the softest pillow of his cares—and her prayers the ablest advocates of Heaven's blessing on his head.

Jeremy Taylor.

◎新報

○求婚の廣告　去年より求婚の廣告と云ふもの折々世の新聞紙上に見へたり西洋には珍しからぬ者と聞けども我國には古來初ての事なれば吾人ともに不思儀に思はれて左ても餘り効能ある好奇の沙汰と考へ居たるが此頃に至り此廣告の尚更に不思儀なるぞ多く世に出る有様とありぬ婚姻は人世最一の大禮にて伉儷相擇むは一朝一夕の思にあらず品物を買ふすら世の廣告によりては中々に信用しがたきを何とて此大禮をかゝる浮としたる手段にて盡し得べきぞ若し斯る方にて手に入りたらんものは大抵品物にて申す迫食ハせなるべし世人が奇を好むは固より快からぬと云へど吾人は斯る行もて隱然婚姻の事を重ぜさせざるの弊をも醸し來らんやを憂ひ更に一層の不快にたへざるものなり

○矢田部君の演説　去九日の教育會月次會にはいろ〳〵の演説もありしうち大學教授矢田部良吉君は女子教育論と云へるを語らる社友某が參り合せ例の速記法もて筆記したれば本號より掲げ初めたり又同日は男女合數の可否を討論あるべき筈ありしが都合によりて次會へ延べされたり

○東京婦人矯風會　本年の發會を去十一日赤坂靈南坂の會堂に於て午後一時より開かる寒雨はげしく來會者僅に二十五名なりしが小崎弘道氏は同會員の注意すべき諸の事件を演説あり會員佐々木とよ子は婦人の心得二ヶ條を申されて後ち議事報告等ありたり。同會の議事其外を本號の特別廣告に掲載すべき所都合により次號に讓りたり

○婦人談話會　宮城縣下柴田郡白石にては題號の如き會を設け一ヶ月三回ツヽ集會して實業を研究し內地雜居の時に至るもおさ〳〵歐米婦人にも劣らぬ地位に進まんとの殊勝なる志しに愛で入會する有志婦人も殊に多し中々盛なる景況なるが何とぞ春花のみに止まらず秋實を得る樣致し度しと彼の地よりの報知と本月十二日の毎日新聞に見ゆ

○婦人勸業會　內外の交際日に密なるに從ひ彼我の風俗を互に相採用するは尤も今日に必要の事ありとの趣意にて大坂の基督信者中有志の人々共相謀りて此度中船橋邊へ婦人勸業會と云へるものを設け十五歳以上の婦女に泰西の女藝を勸め併せて其德義心を養成するよし其業科及び教員は西洋あみもの日本人(毎週二時間)、西洋料理法(オルチン夫人毎週二時間)、同唱歌(オルチン夫人毎週一度)、同裁縫(ギユーリツキ夫人毎週二回)、英語會話(オルチン夫人ギユーリツキ夫人コル

ベー夫人毎日)口授(一週間一度日本人或は西洋人)等なりと

○女子專門學校　本誌に屢ば掲載したる木村秀子は此度遂に帝國大學の醫科撰科生として入校を許されたるが令妹久重子の本志も果さで空しう早世ありたるを懷ひて今度大島國千代麓三重生の兩氏と共に發起人とあられ木村松子を校主となして女子專門學校と云へるを小石川諏訪町に設立せられたり木村秀子より同校設立の趣意書を送寄せられたれば左に掲載す

古來我邦女子の狀況男子との交際社會の關係是を歐米文明諸國に比するに其相懸隔するや日月を以て燈火に比するも過言に非るが如し然り而して近世に至り我邦文運の盛なる庠序の多き邦人皆敎育を論し其の何たるを知るもの丶如く之に由て子弟をして學に就かしむ然れども此處に一の嘆ずべきは邦人多くは果を知りて因を知らざるが如し其の因とは何んぞや女子の敎育之なり然るに方今我國女子の爲に設立する學校たるや僅々殆んど無しと云ふて可なり吾人其子弟の敎育を欲するとも女子に至りては唯だ家庭の薫陶するに止り女子も亦是を滿足するが如し誠に我が文明の一大欠點ならずや

故木村久重子此の事を深く憂へ自ら進で大學に志し他日成業の後大に我婦女子の爲に謀らんとせられしも嗚呼哀かな天道無情にして其志望を果さずして明治十九年八月十六年を一期として空しく黄泉の客となられたり此故に余等久重子を追悼するの餘り或は紀念碑を建立せんと議するもあり然れども其事たる徒だ久重子を記臆するに止り江湖に實用を爲さゞるを以て久重子の本望を全ふするに足らず依て余等子の素志を空からざらしめんが爲め此を今日要用の女子敎育に歸し社會の婦女子をして共に進で男子と同等の地位に至らしめんと欲し久重子殘餘の學資を以て本校を設立す苟も本校生徒たるものは宜く感をこゝに置き品行を方正にして他日本校卒業の上は社會の爲に利益せられんとを希望す

大島國千代謹書

然して同校の專門學科は左の如し

○第一年

獨乙醫學、產婆學、英文學、敎育學、經濟學、英作文、代數三角術、簿記學

○第二年

獨乙醫學、產婆學、英文學、敎育學、心理學、道德學、簿記學、天文學

○櫻井女學校　同校にては去年々末に幼稚保姆練習科にて三人の卒業生あり(栗塚龍、三浦操、中島福)又日本學科にて四人の卒業生あり(長谷川北、高野あい、提箸金、瓜生重)たり然るに校堂建築其外種々の慈善用に數多の入費を要し玉ふことありて卒業式など云ひてこと〴〵しく外形かざることを廢したまへる由尙十六年より校中に榮恩會と云へるを設け會員は一週に一日うち集ひて網物ぬひ針などし其得たる金を諸の慈善に用ひ一には女工の道をもすゝめ玉ひ今に至りて彌よ盛んなりときく

○駿河三島の女學校　同所の豪商小出市兵衞氏が時事に感ずる所ありて酒業を全止し器械を賣拂ひ酒藏を校舍にあてゝ一大女學校を設立あらんとする趣は本誌の四十四號にも少しく記し置たるが此頃同氏より本社へ宛ての來狀によれば最早近く々に願書を差出され教師を外邦に聘しやゝ高尙ある學科を授業さるゝ等の準備全く整ひたりと見ゆ

○西京私立女學校創立　元京都女學校長鹽津貫一郎氏は此度上京三十組御幸町二條下るへ私立女學校を設立し其學科は脩身讀書作文習字英學珠算家政裁縫などにていづれも實學速成を主とせられ林正躬、松宮伊三郎、雨森とし、岡たきの諸氏之れが教員となるゝよしと本月四日の中外電報に見ゆ

○京都束髮　京都婦女子の結髮は種々樣々にして年齡十五年以上二十年以下は島田に結び二十年より二十五年位迄は橫明又は江戸指辨二十五年より三十年位迄は結菱兩輪などにて大低堅油の三十目も塗り附け元結にて結ぶにあらずして油にて塗り堅めると云ふ如き風故に恰も張り拔き髷と一般なる工合にて爲めに毛髮痺れて頭痛の絕へ間なく健康上にも大なる關係を有する事あるが近來は大に東京風の流行して油の使用も次第に薄らぎしが折柄府廳より從前京都婦女の結髮は衞生上害あればとの諭達出てしかば女子師範學校府立女學校の生徒は率先して束髮となり引續き官吏の婦女子幷びに市街中等以上の婦女子は何れも髷形を廢して束髮に擬しけるにぞ大に其弊風を一洗したり此分にては本月中には京都市街婦女一般の頭髮改正を見るに至るべしと思はる今上下兩京區內の婦女の數を聞くに上京區十五年より二十年迄の者四千五百九人二十年より二十五年迄の者三千八百八二十五年より三十年までの者三千九百五十五人下京區十五年より二十年迄の者五千八百九十一人二十年より二十五年迄の者四千九百六十六人二十五年より三十年迄の者五千三百八十三人合計二万八千五百四人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なりと云へり(一月五日内外新報)

○婦人裁縫　前號に記したる婦人洋服裁縫女學校は今月末に開校の手筈なり。又衣服改良會にては事務の都合を待ち多くの婦女子を集めて西洋裁縫の教授を爲すべき計畫のよし

○紡績所　本誌にも屢〻掲載せし大坂三軒屋紡績所は從來六十萬圓の資本にて營業せしが追〻盛大に赴き右にては資本の不足を生じたるに付今度尚ほ一層基礎を擴張する爲め三十万圓の株を募集せらるゝよしに聞く

○授産會社　遠州濱松傳馬町授産會社の卷煙草は昨年來非常の賣捌高にて箱根以西は一手にて賣捌き目下女子の紙卷工は五十名餘に及びたり同社は創立以來一兩年は損失多く一時は社の維持も六ヶかしかりしとの事なりしが社長伊藤擇氏及び外役員の盡力にて斯くは盛大に及び既に去冬は東京へも輸出せし程なりと云ふ(東海曉鐘新報本月四日)

○口入男女　昨十九年中府下の諸請宿が口入にて周旋せし男雇人は五十二万三千九百四十八人女雇人は五万九千九百廿五人にて請宿の數は四百八十九軒ありと云ふ

○フホルゲツト夫人　パロデツス、デ、フホルゲツトと申すは幼名をゼヨセフヒン、デ、ラパレツテと稱しかのボナパートの爭闘の際死刑に定りたる其父を救ひ出したる有名の女丈夫なるが此頃卒然逝去したるよし

○地方新聞紙上女學雜誌の評判　此頃吾人の入手したる者は

記事は何々にて女生は勿論男生にも教育上有益なる雜誌なり(東海曉鐘新報)

本紙にて度々賞賛して措かざる女學雜誌は云々(函館新聞)

世の婦女子たるものは一讀して有益なる書なり(藝備日報)

紙面は從前に比して一段の見榮あり殊に外國紳士の論說及び婦人教育に關する新文明流の作法婦人に關する新書の批評などをも加へたるは尤も直打あり(越佐毎日新聞)

新案妙說寡からず女子敎育に熱心なる有志若くは學問に志ある婦人方は一讀し玉はゞ裨補する所あるべし(肥筑日報)

女權伸張の當節柄有益の雜誌なり(近江共同新聞)

●告白　本誌上に各女學校の景況を一々細錄仕度兼て其道の探報は致候へども何分手廻りかね候處も有之遺憾不尠候に付今度一女學校に付一人宛通信を辱ふすべき仁を相定め度存候相應の報酬とては致兼候へども當分女學雜誌を每號一部宛贈呈し尚ほ特別に有益なる報告を得たる節は別格の御報仕樣可致候因て各女學校中有志の御方は至急御申越被下度候尤も同校より二人以上の御申越有之候節は其中の御一人にのみ委賴可致存候也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社 第四回點取文題

日本婦人歎

右は日本當今の婦女が蒙る數多の束縛、困苦、不自由、等を數へ成るべく實際の儘を文章につゞりたる應答を要するものにて答文は來る三月十日迄に本社に寄送あらんことを乞ふ右日限后に到着するものは乍遺憾點撿の中に收めず且つ答文は審査の上優劣を定め甲乙丙の三點を得る者には各左の賞酬を呈す

甲點者	女學雜誌	三十冊	無代呈上
乙點者	同	二十冊	同
丙點者	同	十冊	同

女學雜誌 每週一回發兌

女學雜誌は當年より每週一回發兌の事と相定め彌よ女事の報告を迅速に且つ數多く相集め可申候而て每週の土曜日を以て發兌の日と相定め申に附ては一月一日第一土曜日分として發行可致の處年初の休業を兼て之を廢し第二土曜日即ち八日分を其代として去五日に出版致候間次回として第三土曜即當十五日に發行仕候爾後每土曜日には定期を誤らず早朝より配達致候也

○書籍取次の事

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したる者は一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とに合せて定價の金員を送附あるへし尤も大抵は其内にて郵送賃を辨じ申すとも雖も大部の書は別に郵賃を請求可致候（但し女學外の書籍とも雖も時宜により右樣の取次可仕候也）

○書籍出版の事

弊社は女學に關係ある書籍を著作し玉ふ方々の便利を圖り適當の方法を以て其出版及發賣を擔任可致候尤も其方法は原稿一覽の上御相談仕候也

○雜誌切手の事

女學雜誌切手は女學雜誌五冊分より以上何冊分にても差出候四季折々の御遺物には至極適當の品と存じ候

東京新橋日吉町八番地

女學雜誌社

添註 土佐日記俚言解 小中村清矩校閲 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全二冊

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全二冊

文話 鈴木弘恭先生著述 三大人批評幷小序 上下 合本（完）定價金四十錢 郵税六錢

此書は古事紀出雲風土記祝詞式續月本紀竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草紙土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓挫省筆等の發を附し一目して文注を了解し易く示されたるを黒川眞頼中小村清矩田中頼庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の摸範とす可き良書なり

東京本郷區春木町三丁目十四番地 文苑堂

取次 女學雜誌社

船越鼎太郎君著 產婦小兒 攝生法 （新著） 一冊十八錢郵送税四錢

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を監み專ら當今の養生法其道を盡さゞることを敎へたり故に月經の心得よう、姙娠したるか否やを知ること、出產の日期を知る法、姙娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飲まする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごとく信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのことなからんを希ふ

（出版兼發賣） 新橋日吉町八番地 女學雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

●本年モ開發社ノ事業ヲ賛助アレ

昨年中ニ於テ本社ノ事業カ著ク進步シタルハ世人ノ熟知スル所ナルカ是レ皆教育家及ヒ其他ノ先覺者カ一意ニ賛助セラレタル高誼ニ依ラズンハアラズ弊社員ノ深ク謝シテ措カザル所ナリ今明治廿年ノ新正ヲ迎フルニ當リ本年モ亦諸家ノ賛助ヲ仰カンガ爲メ弊社カ營ム所ノ事業ヲ畧擧シテ廣告ニ代フルコト左ノ如シ

●通信講學會

一學科　每月　會費金七錢
二學科　每月　會費金十二錢
以上一學科ヲ增ス每ニ金五錢增

同會ハ弊社內ニ之ヲ設ケ弊社ニ於テ其業ヲ營ミ通信教授ノ方法ニヨリ政治學、經濟學、英語、法律學、生物學、礦物學、教育學、心理學、倫理學、數理學、（算數學、代數學、幾何學、三角術）女子家政學、教授法、農學ノ十八科及ヒ其他樞要ノ學科ヲ教フル所ニシテ講師ハ皆一時ノ名流大家ナリ而シテ其會費ハ僅々前記ノ如キニ過キス世ニ低價ノ脩業法多シト雖决シテ本會ノ右ニ出ツルモノアルコトナシ是本會カ教育社會ノ狀勢ヲ察シテ公益ノ爲メ私益ヲ後ニスルノ意ヲ寓シタルモノナレハ江湖ノ諸家其意ヲ諒シテ自ラモ入會シ人ニモ入會ヲ勸メテ本會事業ノ盛ヲ助ケ賜ハンコトヲ

東京下谷區練塀町十四番地

開發社

第百八十號一月八日發兌

●基督教新聞
明治二十年來れり
●教報
數十件
●論說
基督教證據論（其八）
●雜錄
（一）女傑「エリザベス、フライ」の略傳（其三）
（二）悔改の勇
●雜報
●英文教報
●廣告
（每水曜日發兌○一部金三錢郵稅一錢）

CONTENTS.

Editorial:--The 20th year of Meiji has come.
Religious Intelligence.
Leading Articles:--Evidences of Christianity (VIII).
Miscellaneous:--(1) A Brief memoir of Elizabeth Fry. (2) The Heroic Spirit in Repentance.
General News.
Translations.
Advertisements.

定價

一册。五錢	郵稅。一錢	（但府內無郵稅）
十册。四十八錢	郵稅。十錢	（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は　一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐる場に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

（廿七字詰）

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichô, Shinbashi, Tôkyô.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葮町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○橫濱住吉町四丁目角田屋貞○東京本鄉四丁目文壽堂

發行所

東京京橋區日吉町八番地

本局　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豊

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

●基督敎證據論（其八）
●雜錄（一）女傑「エリザベス、フライ」の略傳（其三）（二）悔改の勇
●雜報
●英文敎報
●廣告
（毎水曜日發兌○一部金三錢郵税一錢）

CONTENTS

Editorial:--The 20th yea[r] come.
Religious Intelligence.
Leading Articles:--Evide[nces of Chri]stianity (VIII).
Miscellaneous:--(1) A Br[ief] Elizabeth Fry. (2) The [Courage] in Repentance.
General News.
Translations.
Advertisements.

雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町不[…]
○横濱住吉町四丁目角田屋貞○東京本鄕四丁目文壽堂

東京京橋區日吉町八番地
發行所 本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

驛遞局認可

●本年モ開發社ノ事業ヲ賛助アレ

昨年中ニ於テ本社ノ事業カ著ク進歩シタルハ世人ノ熟知スル所ナルカ是レ皆教育家及ヒ其他ノ先覺者カ一意ニ賛助セラレタル高誼ニ依ラスンハアラス弊社員ノ深ク謝シテ措カザル所ナリ今明治廿年ノ新正ヲ迎フルニ當リ本年モ亦諸家ノ賛助ヲ仰カンガ爲メ弊社カ營ム所ノ事業ヲ畧擧シテ廣告ニ代フルコト左ノ如シ

●通信講學會

一學科　毎月　會費金七錢
二學科　毎月　會費金十二錢
以上一學科ヲ増ス毎ニ金五錢増

同會ハ弊社内ニ之ヲ設ケ弊社ニ於テ其業ヲ營ミ通信教授ノ方法ニヨリ政治學、經濟學、英語、法律學、生物學、礦物學、教育學、心理學、倫理學、數理學、（算數學、代數學、幾何學、三角術）女子家政學、教授法、農學ノ十八科及ヒ其他樞要ノ學科ヲ教フル所ニシテ講師ハ皆一時ノ名流大家ナリ而シテ其會費ハ僅々前記ノ如キニ過キス世ニ低價ノ脩業法多シト雖決シテ本會ノ右ニ出ツルモノアルコトナシ是本會カ教育社會ニ於テ公益ノ爲メ私益ヲ後ニスルノ意ヲ寓シタルモノナレハ江湖ノ諸家其意ヲ諒シテ自ラモ入會シ人ニモ入會ヲ勸メテ本會事業ノ盛ヲ助ケ賜ハンコトヲ

東京下谷區練塀町十四番地

開發社

第百八十號一月八日發兌

●基督教新聞
明治二十年來れり
●教報
數十件
●論説
基督教證據論（其八）
●雜録
（一）女傑「エリザベス、フライ」の略傳（其三）
（二）悔改の勇
●雜報
●英文教報
●廣告
（毎木曜日發兌〇一部金三錢郵税一錢）

CONTENTS.

Editorial :--The 20th year of Meiji has come.
Religious Intelligence.
Leading Articles :--Evidences of Christianity (VIII).
Miscellaneous :--(1) A Brief memoir of Elizabeth Fry. (2) The Heroic Spirit in Repentance.
General News.
Translations.
Advertisements.

定價

一册。五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）
十册。四十八錢	郵税。十錢	（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は 一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行（廿七字詰）	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHO, SHINBASHI, Tôkyô.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂〇東京芝西久保櫻川町萬春堂〇東京神田區雉子町團々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同日本橋區新葭町頁明堂〇同京橋區木挽町壹丁目萬字堂〇同本鄉區元富士町盛春堂〇同本鄉區春木町二丁目解明堂〇京都四條通小橋へ入澤集光堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードー〇大坂備後町四丁目岡島支店〇仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部〇宮城縣仙臺大町木村文助〇尾張國名古屋本町石版舍〇横濱住吉町四丁目角田屋貞〇東京本鄉四丁目文壽堂

發行所
東京京橋區日吉町八番地
本局　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐